

| | | | | | |
|--|--|--|------------------------------|--|---------|
| 苫小牧工業高等専門学校 | | 開講年度 | 令和03年度 (2021年度) | 授業科目 | 現代日本経済論 |
| 科目基礎情報 | | | | | |
| 科目番号 | 0033 | | 科目区分 | 一般 / 選択 | |
| 授業形態 | 授業 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 2 | |
| 開設学科 | 環境システム工学専攻 | | 対象学年 | 専2 | |
| 開設期 | 後期 | | 週時間数 | 後期:2 | |
| 教科書/教材 | 『講義プリント現代日本経済論』（自作教材） | | | | |
| 担当教員 | 多田 光宏,村上 明子 | | | | |
| 到達目標 | | | | | |
| ①現代日本経済の現状と問題点をグローバルな視点で考えることができ、21世紀の日本社会、国際社会への基本的な見通しをもてるようになること。②社会科学の知識や概念、方法論を用いて、第二次大戦以後の日本経済の基本的な流れを歴史的、客観的に理解し、説明出来るようになること。③学習内容から自分なりに課題を発見し、独自に評価出来るようになること。 | | | | | |
| ルーブリック | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | 標準的な到達レベルの目安 | 未到達レベルの目安 | | |
| 授業達成項目に示された各事項を日本経済の発展過程に即して、歴史的、具体的に理解できること。また、経済学の概念について基本的事項からより進んだ項目について基本的に理解し、表現出来ること。戦後70年に及ぶ日本経済と世界経済の基本的な動向を理解して、21世紀の日本および世界経済について基本的な発展方向を見通せることあるいは見直しを持てるようになること。 | 経済学的事項や事実関係を正確に理解し説明できること。自分自身の意見を積極的に展開し、論理的に結論を導き出している。文章表現が適切であることなど。 | 優のレベルに到達していないが、理解内容が経済学的事項について、概ね説明が出来ている。 | 左記事項に不正確で明確な文章表現等がなされていない場合。 | | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | |
| 概要 | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | 戦後の日本経済の発展過程を世界経済的な視野の中で考えていきます。文献・映像資料・各種メディアも活用しながら、多様な経済現象について考察していきます。 なお、考察内容のレポートとしてリアクションペーパーを毎回の講義終了時に提出してもらいます。また履修者数や授業の進行具合によってはグループワークを行うこともあります。また、「ニュース・レポート」として、一人1回ずつ興味のあるニュースについて報告してもらいます。 講義では次回テーマに関する資料を配ることもあります。配布資料をもとに関連情報を調べたり自分の考えを整理・準備することで、リアクションペーパーの内容充実させるよう心掛けて下さい。リアクションペーパーでの考察・質問・要望は、次回講義でフィードバックします。リアクションペーパーは評価ツールであると同時に教員とのコミュニケーションツールでもあります。積極的に活用してください。 | | | | |
| 注意点 | 準備する用具、前提となる知識・科目としては地理、歴史、倫理社会、政治経済を十分に学習しておくことが必要です。また、社会科学学習のためには常に現代社会の動向に関心を持つことが大事です。社会的常識、教養を涵養するために新聞、TVニュースなどを忘れずに見ること、常に社会の動向に関心を払うことが社会に貢献する技術者の養成段階においても必須です。講義で説明した諸問題に関して考察を課すので参考図書などの学習も怠らないよう心掛けましょう。 | | | | |
| 授業の属性・履修上の区分 | | | | | |
| <input type="checkbox"/> アクティブラーニング | | <input type="checkbox"/> ICT 利用 | | <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応 | |
| <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 後期 | 3rdQ | 1週 | ガイダンス, 経済の仕組みを確認する | 基本用語や経済の仕組みなど、授業の前提となる知識を確認する。 | |
| | | 2週 | 経済史を確認する1: 「高度経済成長期」を考える | 戦後改革や高度経済成長期の概要を説明出来るようになる。 | |
| | | 3週 | 経済史を確認する2: 「プラザ合意」とバブル経済 | 時代背景を理解し、プラザ合意の歴史的意義とバブル経済の状況を確認する。 | |
| | | 4週 | 経済史を確認する3: 「失われた20年」と現在 | 「失われた20年」について独自の評価が出来るようになる。 | |
| | | 5週 | 対外関係を考える1: 日系企業の海外進出 | 日系企業の対外進出について、経緯や特徴を考察する。 | |
| | | 6週 | 対外関係を考える2: ODAの役割 | 日本の国際協力の変遷や特徴を確認する。 | |
| | | 7週 | 中間総括 | これまでの学習成果を確認する。 | |
| | | 8週 | 対外関係を考える3: 経済圏構想とどう向き合うか | FTAやEPA交渉の変遷を確認し、可能性と課題を説明出来るようになる。 | |
| | 4thQ | 9週 | 対外関係を考える2: ODAの役割 | 日本の国際協力の変遷や特徴を確認する。 | |
| | | 10週 | 新たな潮流1: 起業活動の可能性 | 近年の起業促進策と日本の状況を概観する。 | |
| | | 11週 | 新たな潮流2: ICTと経済活動 | 経済・社会問題解決の切り札として期待を集めるICTの活用について考察する。 | |
| | | 12週 | 今後の展望1: 仕事のルールとブラック企業 | 「働き方改革」の内容を確認し、労働市場の課題を提示出来るようになる。 | |
| | | 13週 | 今後の展望2: 地域振興の可能性 | 少子高齢化社会における地域社会の課題を確認し、地域活性化の取り組みについて理解を深める。 | |
| | | 14週 | プレゼンテーション | これまでの授業内容を踏まえて「生活を変える新機軸」を紹介する。 | |
| | | 15週 | まとめ、および、到達度試験 | これまでのまとめを行い、学習到達度を確認する。 | |
| | | 16週 | | | |

| モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 | | | | | | | | |
|-----------------------|----|------|-----------|----|---------|-----|-------|-----|
| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | | | | 到達レベル | 授業週 |
| 評価割合 | | | | | | | | |
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 | |
| 総合評価割合 | 70 | 10 | 0 | 0 | 20 | 0 | 100 | |
| 基礎的能力 | 70 | 10 | 0 | 0 | 20 | 0 | 100 | |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |